

農作物の高温・干ばつ対策について(野菜類)

気象庁の1か月予報(7月25日発表)によると**期間の前半は気温がかなり高くなる**と予想されています。また、茨城県農業総合センターから高温に対する技術対策等について(梅雨明け後の高温と干ばつに対する技術対策等について(pref.ibaraki.jp))情報提供がされました。高温が続くことで、農作物の生育が早まることが予想されますので、作業計画の見直しを検討するとともに、下記を参考に農作物の管理作業を行ってください。

野菜全般

(茨城県農業総合センター:梅雨明け後の高温に対する技術対策等についてより抜粋)

【干ばつ対策】

- 1) 作付け前には**深耕、有機物の投入等に努め**、マルチ等により土壌表面からの水分の蒸発防止に努める。
- 2) 害虫の多発生が予想されるため、初期防除に努める。
- 3) 果菜類では、**しおれ予防のため、根域への少量・多数回のかん水が有効**である。
- 4) かんしょ等の露地作物では、灌漑施設がある場合、スプリンクラーや導水ホース・灌水チューブを利用して、効果的なかん水を行う。

【高温対策】

- 1) 高温が予想される場合は、早朝・夕方にかん水を実施し、必要に応じて回数を増やす。
- 2) 地温抑制マルチや敷わら等を活用し、地温の上昇抑制・土壌水分を保持する。
- 3) ハウスの**妻面・側面・天窓の解放、循環扇の利用で通気性を確保**し、適切な温度・湿度管理する。また、遮光資材等の使用で温度上昇を抑制する。
- 4) こまめな**除草、整枝・剪定・下葉の処理を行い風通しをよくする**。苗床では、コンテナなどによる育苗箱のかさ上げや苗の間隔を十分に確保する。
- 5) 高温時の日中の薬剤散布は、特に薬害を生じやすいので、夕方など涼しい時間に行う。軟弱に生育している作物は特に注意する。

かん水の実施については、地域の水事情にも十分配慮して行いましょう

果 菜 類



- 1) しおれ予防のためにこまめにかん水する。
- 2) 不良果の摘果や早めの収穫で着果負担軽減を行う。適切なかん水・施肥により樹勢を維持する。
- 3) 老化した葉、黄化した葉を中心に適切に摘葉することで水分の過剰な蒸散や呼吸抑制する。
- 4) カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

イチゴ(育苗期)



- 1) こまめなかん水と適切な遮光、追肥管理により苗の充実を図る。チップバーンを発生させないように注意する。
- 2) かん水量が増加すると、炭疽病の発生が助長されるので薬剤の予防散布に努める。
- 3) かん水量が多くなると肥料溶出が多くなり肥料切れしやすいので、8月下旬以降草勢や葉色を確認し、液肥等で追肥をする。
- 4) 高温により花芽分化の遅延の恐れがあるため、花芽分化の調査結果に基づき適期定植に努める。

ネギ



- 1) 高温条件下(気温30℃以上)では、土寄せ・追肥など根傷みにつながる作業はなるべく行わない。
- 2) 土寄せを行う場合は比較的涼しい日や時間帯を選び、通路一列おきに実施し、両側の根が一気に切られるのを防ぐ。残った列は5～7日程度後に土寄せを行う。
- 3) 高温時に土壌水分が高いと軟腐病の発生が多くなるので注意する。発病が懸念される場合は予防散布を実施する。

ニンジン



- 1) **35℃以上の高温下では極端に発芽率が悪くなる**ため、播種・かん水を夕方に実施する。(表土から2cmほど掘ったあたりが乾くようなら夕方にかん水を行う)
- 2) 8～10日たっても1本も発芽しない場合はまき直しをする。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部 営農支援課 電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040